



山本組合総合病院

産婦人科診療部長

松井 俊彦



「子宮頸がん^{けい}と予防ワクチンについて」

子宮頸がんは日本において年間約15000人が罹患し、約3500人が死亡しています。子宮がん検診の普及により死亡率は減少しましたが、25～40歳の若年層の患者が増加しており、いまだに恐ろしい病気であることはいまでもありません。

この子宮頸がんに対しては早期発見あるいは予防の観点から、非常に有効な方法が2点あります。

(1) 子宮がん検診

子宮頸がんの早期発見については子宮頸部の細胞を採取して行う細胞診が有効であり、他のがんよりも容易に見えます。この検査を定期的に受けておけば早期に見つけることができます。最近問題になっていくことは検診の受診率が低いことで、特に若年者にその傾向が顕著です。

(2) 子宮頸がんの予防ワクチンについて

子宮頸がんの原因がウイルス（ヒトパピローマウイルス）であること

がわかっており、これを予防するためのワクチンが開発され、現在多くの国で使用されています。日本でも平成21年10月より使用可能となりました。対象は10歳以上の女性で、6ヶ月の間に3回の接種が必要です。これにより子宮頸がんになりやすい特定のタイプのヒトパピローマウイルスの感染を、約70%防ぐことが可能となります。またこの3回の接種で、最低20年間感染を防ぐことができるといわれています。副作用は通常のワクチンと同様であり、特に重篤なものはありません。

当初は自己負担による希望者のみでしたが、自治体による補助が徐々に全国に広がり、平成22年からは全国的に公的な補助が受けられることになりました。自治体によってその運用はやや異なりますが、能代市では中学1年から高校1年、藤里町では中学1年～19才が対象で、無料で接種を受けることが可能となりました。最近ワクチンの供給量が足りな

と思います。

補助の対象外の方は残念ながら自己負担（3回の接種で4～5万円）となりますが、45才くらいまでは十分効果を期待できるといわれています。希望される方は、近くの産婦人科のある医療機関に問い合わせせて下さい。

誤解されることが多いのですが、このワクチンはすべてのヒトパピローマウイルスに対して有効ではなく（有効率は70%）、ワクチン接種を受けたからといって絶対子宮頸がんにはならないわけではありません。さきほど述べた子宮がん検診との併用が重要なのです。この併用が広まれば、将来的に子宮頸がんは激減すると思われれます。

保護者の方にはお願いですが、ワクチンの補助の対象となるお嬢様がいらっしゃる場合には、ぜひこのワクチンを接種して頂くようお願いいたします。またお母様自身も子宮がん検診を受診して頂きたいと思えます。子宮頸がんは予防可能かつ早期発見可能な病気であることを強調しておきます。